

雑誌掲載論文紹介

LNG ; レス・ボリュームリスク、モア・プライスリスク時代の予見 ー北米西海岸初のLNG基地が拍車をかける新ビジネスモデルー*

戦略・産業ユニット総括 研究理事 森田 浩仁

北米西海岸で最初の LNG (液化天然ガス) 受入基地が稼動を始める。メキシコ最北の州、バハ・カリフォルニアで建設中のコスタ・アズル受入基地は、間もなくクールダウン用の LNG を受け入れ、今年中にも商業運転を開始する。

規模は年間 740 万トン。多くが再ガス化され、パイプラインで米国に供給される。

◎米国と LNG

米国は 07 年、約 6,500 億 m^3 の天然ガスを消費した¹。世界最大の天然ガス消費国である。87%を自国で生産し、残りをカナダからのパイプライン供給とLNG輸入に依存する。

輸入が米国の天然ガス消費に占める割合は、3.3%と大きくはない。しかし、輸入量は 97 年の約 160 万トンから 07 年には 1,620 万トンへと 10 倍に増えた。

将来も、国内生産やカナダからのパイプライン供給の限界から、LNG 輸入は拡大を遂げることが確実視されている。

現在は国内で 5 ヶ所の LNG 受入基地が稼動しており、4 基地が建設中である。2010 年代半ばには、受入能力は 1 億 5 千万トンにも達する。これは、06 年の世界の貿易量と同じ規模である。米国は LNG 輸入でもモンスターとなるのか。

◎米国 LNG を巡る不思議

米国の LNG 輸入は、天然ガスの不需要期である 6 月から 8 月にかけてピークを迎える。冬場の入荷量は小さい。07 年には 7 月の 200 万トンをピークとし、9 月は 90 万トン、そして 12 月は 40 万トンに減少した。

また、米国向けとされる中・長期 LNG 契約量は 3 千万トンが積み上がっている (06 年時点)。

しかし、06 年の輸入量は約 1,230 万トン、07 年は 1,620 万トンに留まる。契約量と入着実績との差は、どこに消えたのだろうか。

◎謎解きは新ビジネスモデル

あらたなビジネスモデルが、米国を梃子に形成され、拡大しつつある。

3 千万トンの買主である国際石油会社などは、欧州とアジア、そして米国の市況をにらみ、仕向地を選択している。このため、ほかの輸入国の需要期には米国へ寄港する LNG 船の数は減り、需要が低迷すると、米国の輸入は増大する。

イタリア、スペインなどの欧州勢、わが国をはじめとするアジア勢がスポット輸入を拡大させた 05 年、06 年には米国の輸入は減少した。

高値を求めて、LNG は世界を駆け巡る。こうしたことは、従来型の、売り手と買い手が一對一で、といった取引形態ではありえなかったことだ。

*本文は 2008 年 4 月 30 日に電気新聞に掲載されたものを転載許可を得て掲載いたしました。

¹米国関連データはエネルギー省エネルギー情報局 (EIA) による。(参考) 日本の消費量は約 850 億 m^3 。

一方、夏場に米国に入着したLNGは、再ガス化の後、地下貯蔵設備²に圧入され、需要期の到来、そして価格の上昇を待つ。

◎太平洋市場への影響は

米国はこれまで、ほぼすべての LNG 供給を大西洋市場に依存していた。しかし、コスタ・アズルの運開に伴い、インドネシアやサハリンなどから LNG 船が太平洋を渡ってやって来る。このため、米国の需給、価格動向の影響がアジア諸国に直接、及ぶことになる。

米国の天然ガス価格は、取引市場において決定されている。2000 年以降は、乱高下の後、高止まりしている。一方、アジアの輸入者は、長期契約をベースとした、原油価格リンク方式を継続する。

両者の値差次第で、LNG 船は向きを変える。太平洋上の”余り玉”はコスタ・アズルへ吸い寄せられたり、あるいは米国向け長契 LNG すらもアジアへ向けて引き返すことが考えられる。高値を覚悟すれば、スポット玉の入手は思いのままとなる。

レス・ボリュームリスク、モア・プライスリスクの時代が予見される。

お問い合わせ : report@tky.ieej.or.jp

² 全国に 397 ヶ所存在。総貯蔵可能容量は約 2,300 億 m³。